



1. 桜木町駅と横浜市役所をつなぐ人道橋
2. アトリウム 3. 議場

彩りを感じるフラワールэндスケープとグリーンファニーニチャーによって市民の憩いの場所をつくるなど随所に細やかな工夫が見られる。環境面では、高性能外皮、放射空調、庁舎職員の環境意識を刺激する自然換気システムが都市型超高層庁舎のすべての執務室に採用され、ZEB ReadyのBELS認証取得と運用一年目実績でのZEB



2



3

B Ready達成、再生可能エネルギー100%電力の調達をあわせてカーボンニュートラルを達成している。また、CASBEE横浜Sランク認証取得、CASBEE SDGsチェックリストの最高ランク（自主評価）を実現している。施工面では、高度技術提案型総合評価方式を生かし、入札段階から施工者が参画したフロントローディングによる支持地盤急傾斜地での逆打ち工法による工期短縮、三棟に跨る中間層免震構造の施工改善と水平鉛直変位制御、BIM・FEM

解析を駆使した品質確保、場所打杭・基礎躯体へのECMコンクリート採用、発生土の海上輸送、グリーン電力・ブルーカーボン活用によるCO₂削減施工などが先導的に取り組まれている。維持管理面では、地震到達前の揺れ予測と災害時の建物状態把握による継続使用可否の自動判断・早期復旧判断を可能とする地震・構造モニタリングシステム、自然換気量のリアルタイム把握と放射空調の等価温度制御を実現するクラウドBEMSの開発・導入による

維持管理の高度化、高潮津波の浸水リスクを考慮した三階床下中間層免震層への庁舎設備室と地域熱源施設設置による危機管理拠点としての業務継続管理に加えて、アトリウムでの定期演奏会開催、水辺のプロムナードへのフラワールэндスケーピングなど市民に愛される場づくりを実践する維持管理がなされている。以上のように、建築主・設計者・施工者が三位一体となつてつくり、活用されている新市庁舎はSDGs未来都市横浜を先導している。

横浜市庁舎 概要

- 所在地 神奈川県横浜市中区本町6-50-10
- 建築主 横浜市
- 設計者 (株)竹中工務店、(株)横総会計画事務所
- 施工者 (株)竹中工務店、西松建設(株)
- 竣工日 2020年5月29日

- 敷地面積 13,143㎡
- 建築面積 7,941㎡
- 延床面積 142,582㎡

- 階数 地上32階、地下2階、塔屋2階
- 構造 鉄骨造(柱コンクリート充填鋼管構造)、一部鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造(中間免震構造+制振構造)



詳細や他の写真などは
左記の二次元コードから
Webページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2022 第63回BCS賞受賞作品》 熊本城特別見学通路／熊本市計画桜町地区第一種市街地再開発事業／GREEN SPRINGS／国立競技場／THE HIRAMATSU京都／三栄建設 鉄構事業本部新事務所／ダイヤゲート池袋／谷口吉郎・吉生記念金沢建築館／東京大学総合図書館／東京都公文書館／長野県立美術館／延岡駅周辺整備プロジェクト／Hareza 池袋／横浜市庁舎／早稲田大学37号館 早稲田アリーナ



日建連表彰2022



第63回BCS賞

横浜市庁舎

選定理由

【選考委員】
伊香賀俊治・篠原聡子・大西正修

SDGs未来都市に相応しいホスピタリティーあふれる庁舎である。超高層であつても権威的ではないシルクをイメージした白を基調とした端正な建築であり、対岸の横浜ランドマークタワーをピークになだらかな稜線を描き、横浜みなどみらい地区の新たな景観を形成している。高層の行政棟と中層の議会棟が緑のカスケードによって明確に分節され、一・二階を市民活動空間とし、行政・市議会エントランスを三階にもち上げるこつによって市民と庁舎をつなぐ明快な空間構成となつている。みんなで広場をつくる市民参加のワークショップ、都市のパブリックスペースシンポジウムによって低層部の公共性について多方面の意見を吸い上げた結果が反映されている。水際線プロムナード、四季の

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2022年で63回を数えました。